

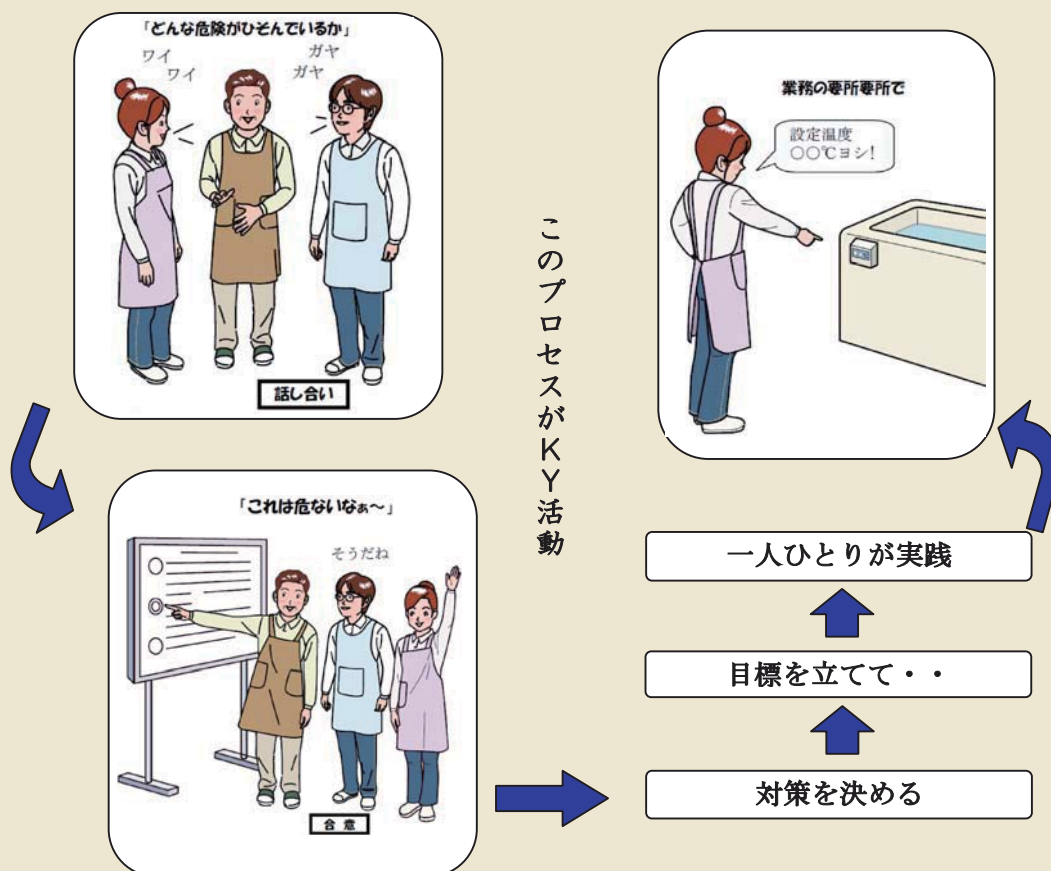
4. KY活動

人間は誰でも、つい「ウッカリ」したり、「ボンヤリ」したり、錯覚をします。横着して近道や省略もします。このような人間の行動特性が誤った動作などの不安全行動（ヒューマンエラー）をもたらし、事故・災害の原因となります。これらは、通常の慣れた業務で起こりがちです。

事故・災害を防止するには、業務を始める前に、「どんな危険が潜んでいるか」を職場で話し合い、「これは危ない」という危険のポイントについて合意します。そして、対策を決め、行動目標や指差し呼称項目を設定し、一人ひとりが指差し呼称で安全衛生を先取りしながら業務を進めます。このプロセスがKY（K＝危険・Y＝予知）活動です。

なお、KY活動推進に必要な手法を習得するための危険予知訓練をKYT（T＝トレーニング）と呼んでいます。

みんなで安全「先取り」の話し合い



K Y T の手法

指差し呼称で安全確認

事故・災害が発生する原因に人間特性の確認不足が関わっていることから、行動の要所要所（危険のポイント、誤操作のポイント）で、対象を見つめ、しっかり指を差して、確認すべきことを「〇〇ヨシ！」とはっきりとした声で呼称します。一人ひとりが行うこの「指差し呼称（確認行動）」は労働災害防止のための重要な手法です。

社会福祉施設では、利用者の前で大きな声や動作ができない場合もあります。それでも、しっかり確認することは必要です。声を出さずに手で触れて確認するなど状況に合った方法を工夫しましょう。

〈行動の要所要所での指差し呼称（基本型）〉



親指を中指にかけた縦拳の形から、人差し指をまっすぐに突き出すと締まった形になります。

キビキビとした動作で！



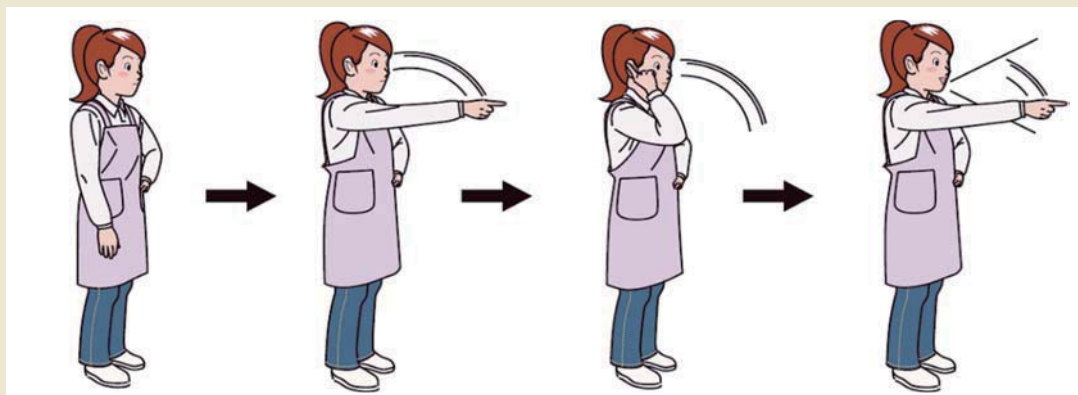
背筋を伸ばして

① 対象を見る

② 指を差し

③ 耳元へ

④ 振り下ろす



- ・呼称項目「〇〇」と唱えながら
- ・右腕を伸ばし
- ・人差し指で対象を指差し
- ・対象をしっかり見る

- ・右手を耳元まで振り上げながら
- ・本当に良いかを考え確かめる

- ・確認できたら
- ・「ヨシ！」と唱えながら
- ・確認対象に向かって振り下ろす